

LEGEND Travel Award 2026 学会参加レポート

(第 78 回日本細胞生物学会大会)

広島大学大学院医系科学研究科 生体機能分子動態学研究室

宮良 政嗣

2026 年 7 月 13 日から 15 日にかけて、札幌コンベンションセンターで開催された「第 78 回日本細胞生物学会大会」に参加してまいりました。本大会では、細胞の構造や機能から複雑な生命現象を理解することを目指し、幅広い分野の研究者による最新の研究成果発表と活発な討論が行われました。

私は、化学物質が細胞に及ぼす影響を細胞生物学的な視点から明らかにすることを目指し、毒性学と細胞生物学の境界領域で研究を行っています。本大会への参加は、ポストドク時代の 2016 年以来、10 年ぶりとなりました。当時は細胞生物学研究を始めたばかりで、若手の会にも参加しましたが、発表できるほどの研究成果はまだ得られていませんでした。一方、学会での発表内容はいずれも興味深く、研究者同士の距離が近く、密な議論が交わされる学会の雰囲気強く印象に残りました。そのため、いつか研究成果を携えて再び参加したいと考えていました。今回、研究成果がまとまったことを機に日本細胞生物学会へ入会し、念願であった発表を実現できたことを大変うれしく思います。

今回私は、「トリブチルスズによる CASM 誘導と TFEB 活性化」という演題でポスター発表を行いました。本研究は、海洋汚染化学物質トリブチルスズがリソソームに障害を与えることで、LC3 がリソソーム膜に集積する CASM と呼ばれる細胞応答を誘導し、リソソーム機能の回復に関わる転写因子 TFEB を活性化することを明らかにしたものです。発表では、多くの方からご質問やご意見をいただき、発表時間を過ぎても議論が続くなど、これまでの学会発表の中でも特に充実した意見交換を行うことができました。研究内容をさまざまな視点から見直すことができ、今後の研究を進めるうえでも大変貴重な機会となりました。

また、大会で特に印象に残ったのは、「pH 応答生物学の展望」と題されたシンポジウムです。細胞内外の pH 変化に対する生体応答や、pH が生命現象の制御に果たす役割について、さまざまな研究が紹介され、いずれの講演も大変興味深いものでした。その他の講演やポスター発表からも、自身の研究に応用できそうな実験手法を学ぶことができたほか、自身の研究の位置づけを捉え直すうえでも多くの示唆が得られ、非常に有意義な大会となりました。

大会期間中は託児所を利用し、スタッフの方々の丁寧なご対応により、安心して発表や討論に参加することができました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

今回の経験を通じて、今後もできる限り本大会に参加したいという思いが一層強くなりました。化学物質によって生じる細胞応答の研究をさらに発展させ、毒性学と細胞生物学の双方に新たな知見をもたらす研究に取り組んでいきたいと思いを。最後になりましたが、本大会への参加にあたりご支援を賜りましたトミーデジタルバイオロジー社および BioLegend 社の関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。